

飯塚 織恵さん ならは薬局（一般社団法人福島復興支援薬剤師センター）

■現在の活動：「地域のかかりつけ薬局」を目指して

管理薬剤師として、処方箋による薬の提供に加え、薬の服薬指導や在宅訪問、健康に関する相談対応を行っています。また、楡葉町以外の相双地域やいわき市の医療機関に通う、広域の患者さんの対応をする薬局としての役割も担いつつあります。

さらに、住民が気軽に相談できる「地域のかかりつけ薬局」を目指して、住民を見守る仕組みづくりの準備（=そなえ）となるよう、患者さんとの何気ない会話から、生活スタイルを把握することを心掛けています。



「楡葉町に来ることに迷いはなかった」と前向きにお話する飯塚さん



ならは薬局



待合室

■活動のきっかけ：災害支援の経験と仲間達とのつながり

東日本大震災時には直接支援活動ができませんでしたが、被災地のことがずっと気になっていました。その思いもあって、茨城県の常総水害や熊本地震発生時には現地で仲間達と避難所を訪問支援し、その中で、「薬局の外でも、薬剤師としてできることがたくさんある。」ということを経験しました。

また、災害医療支援薬剤師の学会で「福島では避難・帰還に伴う生活環境の変化によって、住民の薬の管理問題が生じている。」と聞き、不定期ながらも茨城から福島を訪問し、服薬指導など支援を始めました。

その後、楡葉町が立上げる薬局の運営を『一般社団法人福島復興支援薬剤師センター』が担うことになり、その一員として災害支援の経験と仲間達とのつながりを支えに、楡葉町への移住を決めました。

■活動で思うこと：地域医療と地域の人々をつなぐ 架け橋になりたい

患者さんに対しては、そのご家族と地域の人々、そして医療機関等がどうつながっていけるのかを考えています。

特に高齢者の方は、今は元気でも、ちょっとしたことがきっかけで体調を崩すことがあります。そんな時に、ひどくならないうちに気づいて迅速に対処できる体制づくりと、さらには日常的な相談を聞く場所をつくりたいと思っています。

そして今後のためにも、患者さんだけでなく、その周囲の方にも知識として「予防と準備（=そなえ）」の重要性を知ってほしい。

そんなネットワークの懸け橋になりたいと思っています。



ならば薬局のみなさん



お薬の説明をする
飯塚さん



散歩の相棒
(愛犬ぼう君)

■今後の活動：「地域の保健室」を次世代へつなぐ

ここ楡葉町は、朝は鳥の声で目覚め、気持ちの良い風が吹き抜けるととても住みやすいところです。自然豊かな街並みを、愛犬と散歩するのが日課となっています。

時間もゆっくり流れているので、「つながり」をつくるにはもってこいの場所です。

次の世代を担う方々、特に学生さん達には、ぜひ楡葉町の良いところや人柄の良さ、また町の現状や住民の方々の生活を知って欲しいと思います。ぜひ、ならば薬局に遊びに来てください。

そして「地域の保健室」ならば薬局を中心としたネットワークがさらに広がり、未来につながって欲しいと想っています。